

# 気づき・考え・実行する 児童生徒を育むために



## 青少年赤十字 活動実践事例集

# 2021

- 学校法人札幌慈恵学園  
めぐみナーサリースクール
- 札幌市立白楊幼稚園
- 札幌市立北九条小学校
- 栗山町立継立小学校

- 札幌市立手稲西中学校
- 富良野市立富良野東中学校
- 北海道穂別高等学校
- 北海道伊達開来高等学校

# はじめに

## INTRODUCTION

新型コロナウイルス感染症の拡大は、子どもたちをとりまく環境へ大きな影響を及ぼしています。

感染予防のため学校生活をはじめ様々な場面で制約がある中、子どもたちが自らやっていこうとする気持ちをいかに作っていくか、価値ある体験をどう作るかが課題になっていると思われます。

そのような中、青少年赤十字は、「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」という具体的な行動を実践し、その活動を通じて自らが学び、お互いを尊重することで、誰の心中にもある「やさしさ」と「思いやり」の心を育んでいます。

現在、北海道内では389の学校（園・所）が青少年赤十字に加盟し、活動しています。

これらの学校（園・所）では、自分たちの住んでいる地域や、世界に目を向け、「気づき」「考え」「実行する」という青少年赤十字の態度目標を実践し、様々な活動を行っています。

このたび令和3（2021）年度における青少年赤十字の実践活動をまとめた事例集を作成しました。

本書を通じて、今後の青少年赤十字活動のヒントとなり、また、加盟を検討している学校（園・所）においては参考資料としてお役に立つと幸いです。

令和4（2022）年6月

日本赤十字社北海道支部

# 青少年赤十字（JRC）とは

## はじまり



子どもたちの「気づき」をきっかけに

第一次世界大戦のとき、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、手紙やプレゼントなどを赤十字を通じて届けました。

これがきっかけとなり、JRCが誕生しました。

## 人道的な価値観を世界の子どもたちへ

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから、赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟）は青少年赤十字を創設することを決めました。日本の青少年赤十字は、1922年に滋賀県の守山尋常高等小学校（現在の守山市立守山小学校）で「少年赤十字」として誕生しました。JRCはそれから脈々と活動を続け、2022年に100周年を迎えました。

## JRCが大切にしていること

### JRCの実践目標

#### 健康・安全

生命と健康を大切にする

#### 奉仕

人間として社会のために、人のために  
尽くす責任を自覚し、実行する

#### 国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、  
仲良く助け合う精神を養う

#### 気づき

身近な問題を発見する

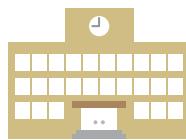
#### 考え

問題解決のための  
道筋や方法を探る

#### 実行する

活動に取り組み、評価と  
反省を次へ活かす

## JRCの導入・活用のメリット



## 赤十字を教材に、「生きる力」を育てる

JRCの活動は、子どもたちの思考力・判断力・表現力を養うとともに、コミュニケーション能力や言語活動の充実が期待できます。

赤十字には、人間の命と健康、尊厳を守るために世界中で活動する中で得た経験やネットワークなどがあります。赤十字そのものを「教材」として存分にご活用ください。

## JRCとSDGs

国際社会全体の開発目標であるSDGsの策定には、国際赤十字も深く関与しており、赤十字では目標の達成にも貢献しています。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

1 貧困をなくそう	2 餓餓をゼロに	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	6 安全な水とトイレを世界中に
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	8 働きがいも経済成長も	9 業界と技術革新の基盤をつくろう	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	12 つくる責任つかう責任
13 気候変動に具体的な対策を	14 海の豊かさを守ろう	15 陸の豊かさも守ろう	16 平和と公正をすべての人に	17 パートナーシップで目標を達成しよう	

## 01 テーマ

THEME \*

花いっぱい  
笑顔いっぱい



## 02 活動内容

CONTENT \*

- 自分たちでお世話をして植物（花）を育て、  
地域の歩道を花で明るくする。



## 03 活動のねらい

PURPOSE \*

- 仲間と協力して植物を育てる活動を通して、「心身ともに健康で感性豊かな子ども」を育てる。
- 歩道に花（プランター）を咲かせ、地域に貢献する。

## 04 活動展開

EXPANSION \*

期間:6月～9月

5月末

- 植物を育てたいという子どもの思いを大切に、保育士とともに植物を育てる計画を立てる。
- みんなでお店に行き、育てたい苗を買う。

6月初め

- 苗や土などの準備をし、苗を植える。
- 調べたり聞いたりして、植物のお世話の仕方を知る。

6月～9月

- 当番を決め、水やりなどのお世話をする。
- 植物の成長を楽しみながら、お世話を続ける。

10月

- お花やプランターの後片付けをする。

## 05 成果

ACHIEVEMENT \*

- 植物を育ててみたいという子どもの思いから、自分たちで植えたい花を決め、みんなでお店に行き好きな花を買うことで、「育てて花を咲かせたい」という意欲が高まった。
- 保育士と一緒にお世話を続け、根気強く植物を育てる体験をすることができた。また、自分たちで育てたお花が大きくなって、きれいな花をたくさん咲かせたことで、植物の成長を通して豊かな感性を育むことができた。



## 06 反省点

REFLECTION \*

- 初めての活動だったため、植物を育てる活動を始めるにはやや時期が遅めになってしまった。もう少し早く、計画を立てて進めるよかったです。
- 今年度はプランターを使って育てたが、今後は町内会との連携を模索し、「街路樹ます」での花壇づくりも計画したい。



01

テーマ

THEME \*

## 生命あるものを 慈しむ心の芽を育む



02

活動内容

CONTENT \*

- 園庭の昆虫を見つけた時は、命があることを知り大切にする
- 園で飼育している介護が必要な高齢のウサギとの関わりを通して、思いやりの気持ちを持つ
- 栽培活動を通して、命をいただくことに気付けるよう働きかける



03

活動のねらい

PURPOSE \*

- 小動物や昆虫などとの触れ合いを通して、小さな命を大切に思う心を育む
- 栽培活動を通して、食物への興味・関心を高めるとともに、生きることと食の関係に気付く



## 04 活動展開

### EXPANSION \*

#### 期間:6月～11月

##### 6月～

- ウサギと触れ合う園児と小動物の絵本、図鑑などを見ながら愛着が持てるようにした。
- 園庭のダンゴムシ、アリなどを捕まえる園児に図鑑などを通して命があることに気付かせたり、飼い方と一緒に考えたりした。
- 自分たちで苗、種まきをし、成長を楽しみにできるようにした。
- コオロギの飼育を通して、強く関心を寄せる園児がいたため、より詳しい図鑑を用意し、学びを深められるようにした。

##### 8月～ 収穫

- 収穫や食を通して、「自分たちが元気に活動するためにこのような命をいただいている」ということを園児なりに感じていけるよう、発達に応じて指導した。
- 3歳児がジャガイモの成長を見て「これジャガイモ?」「どこからジャガイモがなるの?」という疑問を抱いた。すぐに答えを出すのではなく、収穫を通して実感し、その後、図鑑を見ながら振り返ることができるようとした。

##### 11月末

- ホールで飼育していたウサギが、老衰のため死を迎えた。園児にも現実としてその姿を見せ、命の尊さを考える機会とした。

## 05 成果

### ACHIEVEMENT \*

- 命あるものの尊さを知り、全ての命を大切にしようとする芽を育む幼児期。身近な昆虫や栽培物、小動物との触れ合いや図鑑などを通して、より詳しく知る機会を大切に生かすようにしてきた。特に、ウサギの死と直面したことは、死とはどのようなものか感覚的に理解することにつながった。
- 園庭の様々な昆虫を子どもたちが見つけた際に、教師も共に感動し、調べたり育てたりしてきた。特に、見つけたアゲハの幼虫が羽化した際には、「何がアゲハにとって幸せなことか」年長児と共に考える機会をもち、大空に放した経験は、相手を思いやる芽を育む一助となった。
- 収穫した栽培物を食することで、植物であっても命があり、それをいただいて自分たちが生かされていることを感じられるよう、働きかけることができた。

## 06 反省点

### REFLECTION \*

- 特になし
- 幼稚園の絵本、図鑑は消耗が激しく、この度の助成が大変ありがたかった。



## 01 テーマ

THEME \*

### 「未来を創る子ども」の育成



万ガーストーブが止ま  
っても、少しの工夫で  
暖を取ることができ  
ることを確認する実験の  
様子



雪体験授業の様子 雪の紙芝居で問題を出し合う

## 02 活動内容

CONTENT \*

- 4年生社会科「自然災害からくらしを守る」  
授業の実践  
→地震からくらしを守る  
大雪からくらしを守る
- 勤労生産・奉仕的行事「クリーン作戦」



## 03 活動のねらい

PURPOSE \*

- 地震や大雪等の災害から市民の生活や安全を守っている関係機関の活動をとらえ、学習したことを地域に発信する等の活動を通して防災意識を高める。
- 勤労生産・奉仕的活動を通して、勤労の価値や必要性の体得と進んで奉仕しようとする態度を育てる。

## 04 活動展開

EXPANSION \*

### 社会科「地震からくらしを守る」

- ① 北海道の災害について知るために災害年表を作る  
東日本大震災、北海道胆振東部地震の写真資料を提示し、見てわかるなどを交流することで「災害とはどのようなものか」を全体で共有した。その後、自分たちの地域では過去にどのような災害が起きていたのかを知るために、タブレット端末を活用して情報を集め、北海道の災害年表を作った。  
札幌市からダウンロードできる年表を参考にしながら、マイ年表を作成した。
- ② 「地震」に焦点を当て、単元を貫く学習問題を設定する年表を通して、過去に多くの地震が起こっているにもかかわらず、自分たちの生活にあまり影響が出たことはなく、胆振東部地震でさえ数日で日常の姿を取り戻したことから「地震からくらしを守るために、だれがどのようなことをしているのだろうか」という学習問題を設定した。子どもたちからは、「学校、札幌市が何かしてくれているのではないか」という予想が出た。
- ③ 学校の地震対策を調べる(公助)  
子どもたちの予想をもとに、まずは学校の地震対策について調べた。教科書やインターネットを活用するだけではなく、教頭先生にインタビューをしたり備蓄庫を見に行ったりと、自分たちで取材することを大切にした。

EXPANSION \*

- ④ 札幌市の地震対策を調べる(公助)  
学校の地震対策がわかったので、次に札幌市の地震対策を調べた。ここでも、札幌市の危機管理対策室の方に話を聞く場を設け、市の取り組みについて詳しく学ぶことができるようとした。
- ⑤ 自分たちにできることを考える(自助)  
学校や札幌市の「公助」について学んだところで、冬の地震について考える1時間を設定した。  
冬に地震が起きた場合は、夏の場合に比べて被害が5倍になると予想されていること、「市に任せているだけでは寒さで命を落としてしまうかもしれない」ことなどから、「自分たちもできる備えをしておかないといけない」と「公助」から「自助」の大切さに視点を転換できるようにした。
- ⑥ 自分たちにできる冬の災害対策を提案する  
最後は、自分たちが学んできたこと考えたことをスライドにまとめ、保護者の方々に授業参観でプレゼンテーションした。スライドを作る際には、何度も実験をし、自分たちの主張がより伝わるように工夫した。

## 社会科「大雪からくらしを守る」

- ① 「雪害」に焦点を当て、単元を貫く学習問題を設定する。  
地震の学習後、再び災害年表を活用し、今度は「雪害」に焦点を当てた。雪害も地震同様、道内各地で起こっているにもかかわらず、自分たちは毎日、当たり前のように学校に通っていることから、「地震と同じように大雪対策もだれかがしてくれているのではないか」という考えが生まれ、単元を貫く学習問題を設定した。
- ② 札幌市の雪対策を調べる(公助)  
札幌市雪対策室が行っている「雪体験授業」(土木センターの方を派遣し、札幌市の雪対策について教える体験型出前授業)を活用し、札幌市の除雪について教えていただいた。また、札幌市が作成している「雪の絵本」や「雪の紙芝居」なども活用して情報収集を行った。
- ③ 地域の雪対策を調べる(共助)  
まちづくりセンターの所長さんの話をもとに、地域の雪対策についても調べた。
- ④ 自分たちにできることを考える(自助)  
札幌市が新しい除雪方法に取り組む意味を考える学習を通して、「札幌市民の除雪に対する意識を変えよう」という思いが生まれた。市民の除雪に対する意識を変えるために、自分たちにできることは何かを考えた。
- ⑤ 自分たちにできることを市民に提案する  
札幌市雪対策室が主催している「雪と暮らすおはなし発表会」の作品部門に応募し、ポスター、壁新聞、パンフレットを通して市民の皆さんに自分たちの思いを届けることにした。

## 勤労生産・奉仕的行事「クリーン作戦」

誰かのために全力を尽くそう、学校のために進んで奉仕しようとする態度を育てることをねらいとしている勤労生産・奉仕的行事も学校として大切にした。

- ① ねらいと目指す姿の明確化  
勤労生産・奉仕的行事とは何のために行うのか、どんな姿を目指しているのかを明確化し、全教職員で共有した。
- ② 事前指導から活動、そして振り返り  
教職員だけが行事のねらいをわかっていても子どもたちに奉仕の精神は身に付かないで、事前に「何のために行うのか」「どんな姿を目指すのか」「そのために、どんなことをどのように頑張るのか」を考え、意思決定する時間をとった。

## 05 成果

ACHIEVEMENT \*

- どの学習でも、自分の目で見て耳で聞いて学ぶ体験的な学習を大切にしたことで、自分ごととして考えることができ、「自助」の大切さに気付くことができた。
- 最後はプレゼンテーションで提案する活動にしたこと、「自分たちも社会に対してできることがある」ことを実感することができ、主体的に学ぶ姿がたくさん見られた。
- 事前に「何のために」「どのように」を考えてからクリーン作戦に取り組むことで、何となく掃除をするのではなく、誰かのために掃除をする気持ちを持つことができた。「周りに貢献することで自分も気持ちがいい」という事に気付くことができた。

## 06 反省点

REFLECTION \*

- せっかく、学校では「避難訓練」という「自助を前提とした公助、共助に関する力を育てる」ための行事があるので、そことも絡めて活動することで、もっと効果を上げられたように感じる。身に付けた力を発揮する場として活用できなかった。



01

テーマ

THEME \*

## 「気づき 考え 實行する」思いやりと助け合い



02

活動内容

CONTENT \*

## 「健康・安全」 「奉仕」



03

活動のねらい

PURPOSE \*

- 全校児童が自ら進んで活動に参加し、互いに助け合い、協力し合って、よりよい学校生活を築き上げていく実践力を育てる。

## 04 活動展開

EXPANSION \*

期間:5月~2月

### ① 結団登録式・花壇づくり (5月)

- 青少年赤十字活動の一環として、花いっぱい運動を行い、環境美化に努めている。花壇づくりの最初に結団登録式を行い、新たに加入する3年生に対して、上級生がJRCバッジを付けてあげ、活動への意識を高めている。

### ② 赤い羽根共同募金 (12月)

- 児童会書記局が中心となり、募金の目的や使途について説明をして呼びかけ、朝の登校時、約一週間の期間で募金活動を行った。

### ③ あいさつ運動 (6月・2月)

- 児童会書記局が中心となって企画したことで、児童が主体的に活動している。元気よく朝の挨拶を交わすことにより、一人ひとりの意識を高めている。



## 05 成果

ACHIEVEMENT \*

- 児童会書記局が中心となって、募金活動やあいさつ運動へ主体的に参加するように呼びかけたことにより、児童一人ひとりが活動に対して積極的に参加するようになった。
- あいさつ運動では、上級生が下級生のよいお手本になろうとする意欲の高まりが見られ、児童の様子から活動を通した成長を感じることができた。
- 花壇づくりでは、グループを1年生から6年生までの縦割り班を編成したことにより、6年生がリーダーとなり、下級生を助ける様子が見られ、思いやりと助け合いの気持ちを高めることができた。

## 06 反省点

REFLECTION \*

- これまでの取り組んできた活動を継続するとともに、活動内容がマンネリ化しないようにする必要がある。



## 01 テーマ

THEME \*

### 「ようこそ西中へ」



## 02 活動内容

CONTENT \*

- ① 手稻養護学校・神愛園・星置ハイツ  
(老人福祉施設)の方々との交流
- ② 地域福祉活動



## 03 活動のねらい

PURPOSE \*

地域との交流を図り、社会福祉への関心と理解を深める。

## 04 活動展開

EXPANSION \*

### 4月～5月

- 新型コロナウィルス感染症の影響により予定の活動を中止

### 6月～「リングプル回収活動開始」

- グラウンドでの体育的行事「西中スポーツフェス」のための草むしりボランティア
- 花壇への花植えの計画と実施

### 7月

- 新型コロナウィルス感染症の影響により放課後活動中止

### 8月

- 新型コロナウィルス感染症の影響により放課後活動中止
- 手稻養護学校との交流準備開始  
(電話やファックス)

EXPANSION \*

9月

- 手稻養護学校とビデオレターによる交流準備
- 手稻養護学校から車椅子の乗り方の説明ビデオ受け取り
- 手稻養護学校から車椅子を借用（スポーツ用・一般用）

10月

- 学校祭（西中フェスティバル）「ようこそ西中へ」に向けて準備
- 車椅子の試乗体験実施
- 学校祭「ようこそ西中へ」の発表
- ビデオレター用映像の作成と手稻養護学校への送付

11月

- 歳末募金活動に向けて、募金箱等の準備

12月

- 歳末助け合い運動のPRと実施、及び送金（9,066円）
- リングブルの回収状況と雪かきボランティアの案内を、「福祉局便り」で報告と連絡

1月

- 雪かきボランティア実施

2月

- 震災募金活動に向けての準備

3月

- 震災募金活動実施予定

※リングブルの回収は通年で行っております。

05

成果

ACHIEVEMENT \*

- 今年度は、新型コロナウィルス感染症の影響により、年度当初に予定していた活動は縮小または中止となり、老人ホームとの交流は中止、養護学校との交流はビデオレターによる交流となってしまった。そのため、校内で行うことのできるボランティア活動を中心に行った。
- 局員は23名と多くの生徒が集まり、学年の枠を超えて協力し合う姿が見られた。また、与えられた役割に対して責任を持って頑張ろうとする姿勢も見られた。
- 今年度は例年通り、体育館に全生徒を集めた学校祭を行うことができず、基本的には学級の中での活動を中心とし、ソーシャルディスタンスを保った中での学校祭（「未来創造展」と名称を変更）となつた。その中で、福祉局は福祉に対する理解を深めるため、星置ハイツの職員の方からお借りしたPowerPointで説明を行ったり、手稻養護学校からお借りした車椅子の乗り方ビデオの紹介をしたりした。また、実際に試乗した様子やその感想を動画にして放送することで、福祉に対する理解を深めることができた。
- 例年行っている近隣施設の方々の招待も叶わなかった。
- 前年度中止になった雪かきボランティアは、福祉局員以外の生徒も活動に加わっていた。（参加した生徒26名）雪かきは、学校敷地内だけでなく近隣へも出かけ、排雪の手伝いをすることができた。反省点として挙げられていた「福祉の活動を知ってもらう」ことに関しては、おおむね達成できたのではないかと考える。
- 福祉局員の呼びかけや便りを通して、徐々に福祉の輪が広がっているように感じる。今後も学校全体として福祉活動を行い、社会貢献ができるよう尽力していきたい。

06

反省点

REFLECTION \*

- 今後の活動としては、生徒自身が主体となって福祉活動に取り組むことが挙げられる。福祉に対する意識や意欲の高い生徒は集まっているものの、コロナ禍による活動の自粛で外部との交流が難しい。直接交流ができない場合でも、教師と生徒で知恵を出し合って生徒が自主的に活動の内容を考え、実践する。そのような福祉局となるよう、今後も指導していかなければならない。



01

テーマ

THEME \*

## SMILE THE BEST



02

活動内容

CONTENT \*

- リングプルエコキヤップの回収
- 赤い羽根共同募金
- 除雪
- 窓拭き



03

活動のねらい

PURPOSE \*

JRCの精神や活動を理解し、ボランティア活動に关心を持つ。

04

## 活動展開

EXPANSION \*

- 本校では、JRC常任委員会が中心となり、募金やエコキヤップ・リングブルの回収を呼びかけている。
- 委員会活動では、エコキヤップの選別、洗浄、袋詰めなどの作業をしている。
- 富良野市社会福祉協議会や富良野市役所と連携し、赤い羽根共同募金や緑の募金を行っている。
- 募金については、例年校内での募金に加え、店舗前での街頭募金活動も行っていたが、令和3年度はコロナウィルス感染症対策のため、店舗前での街頭募金活動は行わなかった。

05

## 成果

ACHIEVEMENT \*

- 回収したリングブルは江別市のブルネットへ送付し規定量に到達したため、本年度は車椅子に交換することができた。車椅子は本校で保管し、ケガなどをしている生徒のために使われている。
- エコキヤップは神奈川県のエコキヤップ推進委員会に送り、資源の再生や雇用の創成に役立てられている。
- 除雪ボランティアは、富良野市社会福祉協議会と連携し、地域に住む方の家周りを除雪した。
- 募金活動は校内でのみ行ったが、多くの先生方や生徒たちが協力してくれた。

06

## 反省点

REFLECTION \*

- 生徒の保護者が勤務している事業所から大量にエコキヤップが送付されることがあるが、カビが生えたりしているものが多く、選別や洗浄できる量が委員会活動の中で捌くことができる量を超えており、いまだ洗えていないものが多くある。回収対象を一般家庭から出されるもののみにしていく必要がある。



## 01 テーマ

THEME \*

### 地域社会に有為な活動をおこなう



## 02 活動内容

CONTENT \*

- 地域の実情に気付き  
役立つ方策を考え  
穂高生が実践する



## 03 活動のねらい

PURPOSE \*

- 地域の実状を理解し、本校の特徴を生かし、地域や社会に有為な活動を実践する。  
また、この活動を通じて生徒の自己有用感と思いやりの心を育む。

## 04 活動展開

EXPANSION \*

- 今年度もコロナ禍となり、福祉施設や地域との交流活動が中止となってしまった。しかし、本校生徒と教職員で行える活動は計画通り実施することができた。

### 4月

- 交通安全街頭指導

### 7月

- 全校一斉奉仕活動（町内清掃活動）

### 11月

- 校内花壇整備



## 05 成果

ACHIEVEMENT \*

### ● 交通安全街頭指導

街頭で交通安全の呼びかけを行い、運転マナー、歩行者マナー、自転車マナーなどに気付くことができ、生徒自身の交通安全意識の向上につながった。

### ● 奉仕活動

全校生徒で穂別地区（高校周辺）のゴミ拾い清掃活動を行った。

ゴミ処理に対する意識や自分たちが住む地域の意識向上につながった。

### ● 校内花壇整備

例年5月と11月に行っていた花壇整備はできなかったが、むかわ町の姉妹都市である富山県砺波市より寄贈されたチューリップの球根を本校花壇に植えた。地域とのつながりを大切にする気持ちや環境美化への意識向上につながった。

## 06 反省点

REFLECTION \*

- コロナ禍のため、予定していた活動がほとんど中止となつたため、青少年赤十字としての活動があまりできず、青少年赤十字としての意識向上が不十分であった。



01

テーマ

THEME \*

## 伊達開来高校ボランティア局 ～主体的かつ活発な 地域貢献の展開



02

活動内容

CONTENT \*

- 伊達市内の各種団体のイベントに参加
- 防災学習



03

活動のねらい

PURPOSE \*

- 伊達市内のボランティア活動に自主的・主体的に参加し、地域の方々との世代を超えた交流をもとに、本校生徒の豊かな心の育成と幅広い視野を持つ社会性と人間力を育成する。

## 04 活動展開

EXPANSION \*

- 伊達紋別駅前 自転車防犯啓発活動（伊達警察署との連携）
- 伊達市内 防犯啓発活動（伊達警察署との連携）
- 防災学習（4回）

- 今年度は、新型コロナウィルス感染症予防のため、各種団体や施設でのイベントがほぼ中止となり、介護施設への定期訪問も実施することができなかつた。
- 伊達警察署との連携による防犯啓発活動は、屋外または人との接触しない活動だったため、感染予防対策を取りながら参加することができ、防犯に関する啓発を行い、地域に密着した活動を行うことができた。
- また、有珠山噴火や胆振東部地震の災害や救助活動、防災グッズや避難所運営ゲーム等の防災学習を実施し、地域における高校生の役割やボランティア活動について考えることができた。



## 05 成果

ACHIEVEMENT \*

- ボランティア活動を通して、学校生活だけでは身に付けられない自主性や積極性を身に付け、状況に応じた臨機応変な対応を学び、様々な経験を通して社会性を身につけることができた。また、地域に密着した活動を通して、地域活動の意義や必要性を理解し、生徒自身の自己肯定感や自己有用性を高めることができた。
- 今年度は、各種団体のイベント等がほぼ中止になったが、一つのイベントを遂行するための感染予防対策について検討・工夫し、活動に参加することができた。さらに、4回の防災学習により、過去の災害や救助活動、避難所運営について学び、災害への備えや自分にできるボランティア活動について深く考えることができ、地域貢献への意欲を高めることができた。

## 06 反省点

REFLECTION \*

- 介護施設への訪問ができなかつたため、異世代の方々とのコミュニケーションについて学ぶ貴重な機会が減り、学校生活では得られない「ふれあい」や「つながり」の大切さを実感したり、他者への思いやりの気持ちを育てる機会が減つたりしたのは残念だった。次年度もその機会は少ないと思うが、できる範囲で関わりを持続けたい。また、高校生も地域社会の一員であることを踏まえ、個とコミュニティ・地域社会とのつながりを理解し、様々な関係団体と連携を取りながら、地域社会に積極的に関わる姿勢を育てたい。





**日本赤十字社** 北海道支部  
Japanese Red Cross Society

